

学校教育目標	自ら学び、共に高め合い、未来を拓くこどもの育成
育成を目指す資質・能力	活用力・納得解を共創する力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 単元末テスト(思考・判断・表現)の目標値80点の達成率70%以上を満たしていないのが、2・3・4年の算数、正答率60点未満10%以下の目標を満たしていないのが、6年の算数と4・5年の理科であった。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 大分県学力定着状況調査・全国学力・学習状況調査の結果から、県・全国平均を上回る正答率であったが、個別に見ると、学力の定着に個人差が見受けられる。また、国語・算数・理科ともに記述問題の正答率が低かったり、無回答であったりする傾向にあった。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 1学期末に実施した学校生活アンケート学校の結果において、「授業は楽しい児童」が90%、「授業が分かる児童」が93%であった。しかし、「授業中、自分の考えをすすんで発表(友達に伝える)している児童」が78%、「友達と話し合うことでよりよい考えをもつことができた児童」が86%という結果から、自分の考えはもてる児童が多いが、それを発表したり伝えたりすることに苦手意識をもっている児童がいることが分かった。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○生徒指導の4機能を意識した授業になっているか、個人で掲げた授業改善宣言を月末に振り返り、翌月の改善宣言を作成することで、個々の教員の授業改善を図っている。 ○教職員アンケート「自分の考えを伝え合う場を設定し、考えを広げ深める授業展開を1日1回以上行っている」では93%だった。 ○考えをもち、伝え合う場を設定した授業展開を意識してきたことで、知識・理解など基礎的な学力は定着してきているが、活用力に繋がる思考・判断・表現の定着にはまだ課題が残っている。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○教職員アンケート「必要に応じて、個別指導・補充学習を行っている」が93%、「家庭学習の習慣化を図っている」が100% ○納得解の共創を目指し、考えをもち、伝え合う場の設定をした授業を展開するには、学習規律を守らせることが必要不可欠であることが明らかであるため、月末に学習規律アンケートを実施し、教職員の共通理解のもと日々の授業を行ってきた。	

学力に関する達成指標

- 単元末テスト(思考・判断・表現)で目標値80点の達成率70%以上。
- 単元末テストの正答率60%未満の児童を10%以下。
- こどもの読書意欲・読書習慣の形成に努める。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 ＜テーマ＞確かな学力の定着・向上を図る学習指導と考えの交流の充実 ＜重点＞ ・生徒指導の4機能を意識した授業づくり ・子どもたちが考え、討論する授業の構築	
	〈取組内容〉 ・1時間の授業の中に、目的や意図を明確にしたペア・グループなどの対話の場の設定を行う。 ・子どもたちが話し合いたくなる課題の設定と授業展開の工夫	〈家庭・地域の取組内容〉 家庭学習の習慣化
	〈取組指標〉 ・子どもたちが安心して自分の考えを伝えられる雰囲気づくりに努める。 ・自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりすることの楽しさや満足感を感じられる場を設ける。	〈家庭・地域の取組指標〉 「家庭学習の手引き」をもとに、毎日子どもへの家庭学習への声かけを行う。
	〈検証指標〉 ・学校生活アンケート「授業が分かる」「授業が楽しい」と回答する児童90%以上 ・学校生活アンケート「友だちと話し合うことでより良い考えをもつことができた」児童90%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 学校生活アンケート「家庭学習の習慣が付いている」と回答する保護者80%以上
【授業改善以外の学力向上の取組】		
・必要に応じて、休み時間や放課後等に個別指導を行う。 ・こどもの読書意欲・読書習慣を高めるために、図書館支援員との連携を図る。		